

# 抄遊交

「ラグビー部に怖い監督がいる」。大学時代、そんな噂を聞いてその人が教官を務める体育の授業を取ってみた。京都産業大学ラグビー部の大西健監督との出会いは、思いのほか優しい語り口に引かれて試合の応援に行くようになった。

は練習試合を見るのが好きだ。指示の様子がよく分かり、試合後にどんなふうにかかっているかまで聞き取れる。監督は試合に向けた「火のつけ方」が本当にうまく、気持ちが高ぶった選手が試合前から涙を浮かべるほどだ。

今は年に2、3回ほど会う。合宿に家族で訪問した際は、子供に「うち

何度か通っていると「いつもありがとう」と声をかけられ、自宅に呼んでもらえるようになった。奥さんの手料理をごちそうになりながら、昔の試合の映像を見せてもらったのが思い出深い。部の朝練は6時から始まる。高い目標を指してひたむきに努力するのは企業経営によく似ている。

## 監督「怖い」

原 大 ちのラグビー部に入りや」と言ってくださる。もちろん強制はしないが、そうやってほしいと思っている。

これまでラグビー部と自分の成長を重ね合わせてきた。次に会うのは来年1月ごろだろうか。悲願の大学日本一に向け、自分に手伝えることは何かと思いを巡らせている。(おおはら・しげる

公式試合もいいが、私(ウイルグループ社長)